
バカたちの温泉旅行

SHIN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカたちの温泉旅行

【Nコード】

N6402V

【作者名】

SHIN

【あらすじ】

幸運？にも温泉団体チケットをあててしまった雄二
そんな訳でいつものメンバーで温泉に行くことになった
温泉旅行ではいったいなにが起こるのか？？

すみません

本当は連載です

ぜひそっちも見てください。

（前書き）

作者の頭は色々残念な上文章力が皆無なので色々悲惨な部分があるとおもいます。

一応明久×姫路にしたいと思っています。

駄文になること間違いなしですがよろしく願います!!

??? side

やべえまさか温泉団体チケットを当てちまうなんて・・・
隠してもどうせすぐ翔子にばれちまう・・・
こうなったらあいつらも巻き込んでやる

↓ 金曜日の放課後 ↓

「明久温泉に行かないか？」

「・・・雄二浮気は許さない」

「ぐああああ」

霧島さんは雄二にアイアンクローを決めていても絵になるな
とっそんなことより

「雄二僕にそんなお金がないこと知ってるよね？」

「その点なら問題ない昨日くじ引きで団体温泉チケットが当たったんだ」

雄二アイアンクローをされながらしゃべれるなんてやられなれてる
ね・・・

あっなんか霧島さんから黒いオーラーみたいなのが見える

「・・・どうして私を誘ってくれないの？」

「翔子落ち着け団体と言つてぎやああああ」

「本当に霧島さんは雄二一筋だね」

「明久くんやつぱり坂本くんと・・・」

「なに言つてるの姫路さんぼくはちゃんと異性について美波僕の肘はそっちには曲がらないよおおお」

バキユさよならぼくの右肘

「全くお主らはいつも騒がしいのう」

「・・・撮影のじゃいや何でもない」パシャパシャ

「ムツツリーニくんそんなに女の子の写真を撮りたいなら僕がモデルになってあげよーか？」

「・・・自惚れるなおまえには興味ない」

「そっか残念だねせつかく今日はスパッツをはいてないのに」チラッ

ブシャアアアア

「全くお主らはお主らでよう飽きんのう
して雄二よ団体と言つておったが何人まで行けるのじゃ？」

「8人までだからここに在るメンバーでいいだろ」

「雄二そんな勝手に決めたらダメだよ。姫路さんは大丈夫？」

「はい私は大丈夫です」

「／／／それはよかった」

やばいあの笑顔は直視できない

「ウチも大丈夫よ」

「ワシも今週は部活がないから大丈夫じゃ」

「・・・問題ない」

「僕も大丈夫だよ」

「よし決まりだな

じゃあ俺の家に明日の朝8時に集合で大丈夫か？」

「んゝ僕は場所がわからないからムツツリーニ君案内お願いね」

コクリ

「・・・明日ここに7時集合で大丈夫か？」

「うん大丈夫だよ」

「明日遅れたら置いていくから遅刻するなよ特に明久」

「大丈夫だよ」

「それならいいじゃあもう今日は帰るか明久いつものように頼んだぞ」

「了解」

（帰り道）

明久side

清涼祭の事件以来姫路さんと一緒に帰ってるけどこの時間はとって
もいやされるや

「明久くん温泉楽しみですね」

「うんとっても楽しみだよ」

「明久くんはよく温泉とか行くんですか？」

「昔はよく行っただけど最近は行ってないかな」

「そうなんですか」

実は私温泉初めてなんですよ」

「えっそうなの!？」

「はいだからどんな物を持って行けばいいかわからなくて」

「それなら大丈夫だよ」

着替えさえあれば何とかなるよ後は自分の好きな物を持つてくるだ
けでいいよ」

「わかりました」

「荷物は結構な量になるからばくでよければ荷物運び手伝おうか？」

「そんなの悪いですよ」

「気にしないでいいよどうせばくはこんなことしかできないから」

「……そんなことはありませんよ」

「ごめん姫路さんよく聞こえなかったよ」

「気にしないでください」

えつとじゃあお願いしてもいいですか？」

「もちろん」

「お願いします」

じゃあ私こっちなので」

「家まで送らなくて大丈夫？」

「すぐそこなので大丈夫ですよ」

「じゃあ明日は7時30分にこの場所でいい？」

「はい明久くん遅刻しちゃダメですよ」

「任せてまた明日ね姫路さん」

そういつてばくは歩き出した

まって今考えて見たらばくとしても大胆だった！？

やばい顔が赤くなってきた気がする

・・・まあいつか大好きな姫路さんと一緒にいれる時間が増えたんだから

そうと決まったら今日は早く寝よ

side out

姫路side

私の密かな楽しみ

それはわかれた後の明久くんの中を見つめること
さつき明久くんはこんなことしか出来ないなんて言っていました
がそんなことはありませんよ

明久くんは私に色々な大事なものをくれていますよ

私はそんな明久くんが大好きです

この思いを伝えたら明久くんはどうしますか？

もしかしたら距離を置かれちゃうかもしれないですね

でもいつかこの気持ちを伝えますから待っていてくださいね

こうして夜は更けていった

（後書き）

我ながらぐちゃぐちゃですねはい・・・
こんな文章につきあっていただきありがとうございます。
感想などお待ちせております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6402v/>

バカたちの温泉旅行

2011年10月9日11時48分発行